

# 【製品安全データシート】

## KBD UVクリーナーNo1

作成日 2001年7月21日  
改訂日 2009年10月7日  
改訂日 2009年10月26日

### 1.化学物質等及び会社情報

製品名： KBD UVクリーナーNo1  
製品コード： S-1021  
会社名： 三成化工株式会社  
住所： 大阪府大阪市城東区関目 4-11-38  
電話番号： 06-6932-3531  
FAX 番号： 06-6932-3830  
メールアドレス： [sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp](mailto:sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp)  
推奨用途及び使用上の制限： 印刷インキの洗浄液

### 2.危険有害性の要約

エチレン系グリコールエーテル溶剤の情報

#### GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分4
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過氧化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

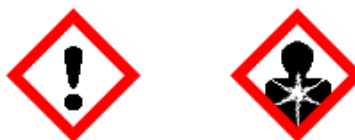
急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分外

環境に対する有害性	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分2 中枢神経
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分外
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

GHS ラベル要素

エチレン系グリコールエーテル溶剤の情報

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

警告

危険有害性情報：

可燃性液体  
強い眼刺激  
末梢神経系の障害のおそれ

注意書き：

**【安全対策】**  
熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。一禁煙  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

**【応急措置】**  
火災の場合には適切な消火方法をとること。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。  
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。  
ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。

**【保管】**  
換気の良い冷所で保管すること。  
施錠して保管すること。

**【廃棄】**  
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3.組成、成分情報

化学物質

化学名	通知対象物に該当しない (エチレン系グリコールエーテル溶剤)	通知対象物に該当しない (芳香族炭化水素系混合物)
分子式 (分子量)	—	—
CAS 番号	—	—
官報公示整理番号 (化審法・ 安衛法)	—	—
分類に寄与する不純物及び 安定化添加物	データなし	—
含有量	<u>80~90%</u>	<u>5~10%</u>

#### 4.応急措置

吸入した場合：	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合：	水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
目に入った場合：	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用 していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
予想される急性症状及び 遅発性症状：	皮膚：乾燥（急性症状）、脱脂（長期又は反復ばく露） 眼：発赤、痛み（急性症状） ※エチレン系グリコールエーテル溶剤の情報
最も重要な兆候及び症状：	データなし
応急措置をする者の保護：	データなし
医師に対する特別注意事項：	データなし

#### 5.火災時の措置

消火剤：	水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、 乾燥砂類
使ってはならない消火剤：	棒状注水
特有の危険有害性：	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法：	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護：	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

#### 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置：	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
---------------------------	--

環境に対する注意事項：	関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
回収、中和：	環境中に放出してはならない。 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、 化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化方法・機材：	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策：	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7.取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策：	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、 保護具を 着用する。
局所排気・全体換気：	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項：	火気注意。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避：	「10.安定性及び反応性」を参照。
保管	
技術的対策：	消防法の規制に従う。
混触危険物質：	「10.安定性及び反応性」を参照。
保管条件：	冷所、換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 酸化剤から離しておくこと。
容器包装材料：	データなし

## 8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度：	未設定
許容濃度（ばく露限界値、 生物学的暴露指標）：	
日本産業衛生学会（2007年版）	未設定
ACGIH（2007年版）	未設定
設備対策：	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具：	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具：	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具：	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：	適切な顔面用の保護具、保護衣を着用すること。
衛生対策：	取扱い後はよく手を洗うこと。

---

## 9.物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など：	無色透明液体
臭い：	石油臭
pH：	混合物としてデータなし
融点・凝固点：	混合物としてデータなし
沸点範囲：	<u>174 ~ 230.4°C</u>
引火点：	70°C以上
自然発火温度：	混合物としてデータなし
燃焼性(固体、ガス)：	混合物としてデータなし
爆発範囲：	混合物としてデータなし
蒸気圧：	混合物としてデータなし
蒸気密度：	混合物としてデータなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)：	混合物としてデータなし
比重(密度)：	<u>0.938</u>
溶解度：	ほとんどの有機溶剤に溶ける
オクタール / 水分配係数：	混合物としてデータなし
分解温度：	混合物としてデータなし
粘度：	混合物としてデータなし
粉じん爆発下限濃度：	混合物としてデータなし
最小発火エネルギー：	混合物としてデータなし
体積抵抗率(導電率)：	混合物としてデータなし
その他：	混合物としてデータなし

---

## 10.安定性及び反応性

安定性：	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性：	蒸気、空気の爆発性混合気体を生じることがある。 爆発性過酸化物を生成することがあると推測される。 強力な酸化剤と反応する。
避けるべき条件：	裸火
混触危険物質：	強力な酸化剤
危険有害な分解生成物：	爆発性過酸化物

---

## 11.有害性情報

	エチレン系グリコールエーテル溶剤の情報
急性毒性：	
経口：	List 1 の情報源から得られた複数のラット LD <sub>50</sub> 値(6560 , 5660 , 7300 , 9600 , 6530 , 5080 mg/kg)(DFGOT VII(1992)、ECETOC TR.64(1995)、PATTY(5th , 2001) が全て 5000mg/kg を超えていることから区分外とした。
経皮：	List 1 の情報源から得られた複数のラット LD <sub>50</sub> 値 (>2000mg/kg) (DFGOT VII(1992))およびウサギ LD <sub>50</sub> 値 (2764 , 4120mg/kg)(PATTY(5th , 2001)、EU-RAR(2007))に 基づき JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分 5)とした。
吸入：	吸入(ガス)：GHS 定義における液体である。 吸入(蒸気)：データなし

皮膚腐食性・刺激性：	<p>吸入(ミスト)：ラットに 18ppm で 7 時間ばく露して死亡なしとの報告(EU-RAR(2007))もあるがデータ不足で分類できない。ウサギを用いた試験で「刺激性なし」あるいは「軽度の刺激性」の結果(IUCLID(2005)、BUA(1997)、HSDB(1997))が得られ、ヒトで行ったパッチテストでは一部の被験者に紅斑を認めたのみであった(DFGOT VII(1992)、ECETOC TR.64(1995)、HSDB(2007))ことから JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分 3)とした。</p>
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	<p>ウサギ眼に適用した試験で中等度の刺激性と組織損傷を示したが、14 日以内に回復したと述べられ(ECETOC TR. 64(1995) PATTY(5th, 2001))、別の試験では強い刺激性(highly irritating)が報告されている(IUCLID(2000))。これらの結果に基づき区分 2 とした。</p>
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	<p>呼吸器感作性：データなし 皮膚感作性：モルモットを用いた Maximization test において感作性は見られなかった(Non sensitizer in guinea pig maximisation test., ECETOC TR. 64 1995)ことより、区分外とした。</p>
生殖細胞変異原性：	<p>体細胞 in vivo 変異原性試験(マウスの骨髄細胞を用いた小核試験)の陰性結果(DFGOT VII 1992)に基づき区分外とした。なお、in vitro 変異原性試験では複数指標での強い陽性結果は見出されていない。</p>
発がん性：	データなし
生殖毒性：	<p>ラットを用いた経口投与による一世代生殖試験(OECD TG 415)、経皮投与による一世代生殖試験、および 13 週間投与生殖試験の各試験において、出生仔体重のわずかな低下を除き試験物質ばく露の影響は全く見られなかった(DFGOT VII 1992)、EU-RAR(1997)、HSDB(2007))。一方、妊娠中の器官形成期を含む期間にばく露した試験では、ラットに経口と皮下投与により、マウスに経口投与により、またウサギに経皮投与によりそれぞれ行われているが、マウスの 2 試験中の 1 試験での同腹生存仔数の減少を除き催奇形性はもとより仔の発生にも悪影響は示されなかった(DFGOT VII(1992)、EU-RAR(1997)、HSDB (2007))。以上の結果から、親の性機能および生殖能に加えて仔の発生に対する悪影響もないと判断されるので区分外とした。なお、器官形成期投与のマウスの 1 試験で見られた同腹生存仔数の減少(HSDB(2007))は、記述により分娩後の観察結果と推測されるが試験法を含め詳細不明である。</p>
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)：	<p>ウサギに経口投与により約 2000mg/kg(2130uL/kg)で死亡が発生し、おおよそ 1000~2000mg/kg で腹臥位となり一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状に加え腎臓障害が見られ(DFGOT VII(1992))、また、本物質の主要な急性症状として中枢神経症状と腎臓障害が記述されている(DFGOT VII(1992))。一方、本物質を含む塗料のばく露を受けたヒトで腎臓障害が報告されているが(DFGOT VII(1992)、BUA Report</p>

<p>特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) :</p>	<p>204(1977))、本物質の直接的影響ではなくアルコールとの相乗作用によると指摘されている(DFGOT VII(1992))。ウサギの試験結果には腎臓障害の種類と程度について記載がなく詳細不明である。したがって、腎臓の所見については分類できないが、中枢神経症状は区分2とした。</p> <p>ラットを用いた6週間(雄のみ)および13週間反復経口投与試験で重大な影響は認められず、NOAELはそれぞれ891mg/kg/day(カットオフ値：217mg/kg/day)および250mg/kg/dayと報告されている(DFGOT VII(1992),HSDB(2007))。また、ラットに13週間経皮ばく露による試験では最高用量2000mg/kg/dayでも全身影響を示さなかった。(EU-RAR(2007))。これらの用量がいずれもガイダンス値区分2の範囲の上限を超えていることから区分外とした。なお、その他に複数の反復ばく露による試験が実施されているが、それらの結果からガイダンス値範囲に相当する用量での重大な毒性の発現は確認できない</p>
<p>吸引性呼吸器有害性 :</p>	<p>データなし</p>

## 12.環境影響情報

<p>水生環境急性有害性 :</p>	<p>エチレン系グリコールエーテル溶剤の情報</p> <table border="0"> <tr> <td>魚類 (ブルーギル)</td> <td>96 時間</td> <td>LC<sub>50</sub>=1300mg / L</td> </tr> <tr> <td>甲殻類 (オオミジンコ)</td> <td>48 時間</td> <td>EC<sub>50</sub>&gt;100mg / L</td> </tr> <tr> <td>藻類 (セネデスマス)</td> <td>96 時間</td> <td>EC<sub>50</sub>&gt;100mg / L</td> </tr> </table> <p>(いずれも EU-RAR,1999)から、区分外とした。</p>	魚類 (ブルーギル)	96 時間	LC <sub>50</sub> =1300mg / L	甲殻類 (オオミジンコ)	48 時間	EC <sub>50</sub> >100mg / L	藻類 (セネデスマス)	96 時間	EC <sub>50</sub> >100mg / L
魚類 (ブルーギル)	96 時間	LC <sub>50</sub> =1300mg / L								
甲殻類 (オオミジンコ)	48 時間	EC <sub>50</sub> >100mg / L								
藻類 (セネデスマス)	96 時間	EC <sub>50</sub> >100mg / L								
<p>水生環境慢性有害性 :</p>	<p>難水溶性でなく(水溶解度 = 1000000mg / L(PHYSROP Database,2008))、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。</p>									

## 13.廃棄上の注意

<p>残余廃棄物 :</p>	<p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。</p>
<p>汚染容器及び包装 :</p>	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>

## 14.輸送上の注意

<p>国際規制</p> <p>海上規制情報</p> <p>航空規制情報</p>	<p>IMO の規定に従う。</p> <p>ICAO / IATA の規定に従う。</p>
<p>国内規制</p> <p>陸上規制情報</p> <p>海上規制情報</p> <p>航空規制情報</p> <p>特別の安全対策</p>	<p>消防法の規定に従う。</p> <p>船舶安全法の規定に従う。</p> <p>航空法の規定に従う。</p> <p>移送時にイエローカードの保持が必要。</p> <p>食品や飼料と一緒に輸送してはならない。</p> <p>輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れの</p>

ないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
重量物を上積みしない。

---

## 15.適用法令

労働安全衛生法：	
有機則：	第三種有機溶剤等
表示物質：	該当しない
通知対象物質：	ナフタレン 政令番号 第 408 号
消防法：	危険物 第 4 類 第三石油類 非水溶性液体 指定数量 2000L 、危険等級Ⅲ
毒物及び劇物取締法：	該当しない
廃棄物処理法：	産業廃棄物
PRTR 法：	非該当

---

## 16.その他の情報

参考文献	各データ毎に記載した。
災害事例：	情報なし
記載内容の取扱い：	本データシートは、化学製品の工業的な一般的取り扱いに際しての安全な取り扱いについて最新の情報を集めたものですが、万全ではありません。新たな情報を入手した場合は追加または改訂されることがあります。記載の注意事項は通常の取扱いを対象とした情報提供であり、必ずしも安全性を保証するものではありません。化学製品に他の化学製品を混合したり、特殊な条件で使用するときは、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。 本データシートの含有量、物理的及び化学的性質等の数値は保証値ではありません。